

# Face to Face

TICO は徳島発！保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力 NPO 法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター No.52 2018 年 10 月号

国の勢い	☞p.1
ザンビア心臓血管外科技術移転事業	☞p.2
カンボジア救急医療処置技術普及事業	☞p.3
理事のつぶやき	☞p.4



## 国の勢い

TICO 代表理事 吉田 修

ザンビアの首都、ルサカを訪れる度に街が拡大していることに驚く。半年ごとに新しいショッピングモールができ多くの市民が車で買い物に来る。フライドチキンなどのファーストフードのチェーン店もどんどん展開している。道路が拡張され舗装されていく。それに伴いベッドタウンも広がっていく。もうすぐ新空港ビルも開業するであろう。90年代には考えられなかった光景である。



中国の資金／企業／人材が相当入って来ており、その影響力はとてつもなく増大している。

徳島に帰ってくると、寂れたど田舎に帰って来た、そんな気分になる。確かに日本は、特に地方は、明らかに縮小社会に入った。どう見ても回復不能な少子高齢化が指数関数的に進行している。小学校はどんどん統合され数を減らしている。駅前や国道沿いの商店は廃業し、飽和状態となったコンビニが何とか残っているだけである。国の勢いの違いを感じるのである。

『どう見ても回復不能な』と思わせるのは、日本政府の無策と財政状況である。少子化対策、地方創生、言葉は聞くが効果的な政策は見当たらない。政府は税収以上の支出を続けて来て久しいが、もうすぐ1000兆円になる借金が財政をますます圧迫する。超高齢化社会を支えるために莫大な社会保障費が必要であり、他に回す予算を捻出できない、というのが実情ではないだろうか。

昨年から JICA の資金が不足し NGO に対する事業募集がない。多くの国際協力事業の予算も大幅縮小されている。日本の外交の大きな柱が揺らいだ前代未聞の事態であり国際的な信頼を大きく損ねた。全く報道されないのも不可思議だ。内部の調整の問題となっているが、日本の崩壊が始まったのではないかと私には思える。

TICO の活動は、先進国から発展途上国への援助として始まった。しかし、そんな偉そうなこと言てられない状況になりつつあるのかもしれない。もちろん、現在、自己資金で実施している心臓外科チーム養成事業など、日本では確立されているものがザンビアではほとんど手付かずの領域である。そのギャップを埋めることは急務で、現場では様々な分野でまだまだ国際協力は求められている。

日本政府の財政緊迫、あるいは破綻の可能性も考えると、日本の国際 NGO も資金調達を再検討しなくてはならない。ザンビアの経済成長に乗り、現地で社会に貢献する経済活動を始めるのも一案と思われる。我々の得意分野は医療であり、良い医療を提供し収入を得る、医療のザンビア進出である。

日本の地域の人口減少スピードを考えると、医療業界も20年後は非常に厳しい状況が予想される。医療保険制度も破綻するかもしれない。生き残りをかけた戦いである。

その上に、地震と異常気象による災害が頻発している。東北の復興も原発事故の処理も道半ばであるが、その上に南海トラフ巨大地震が迫っていると言われている。この災害に対応し復興するための莫大な資金を調達することが果たしてできるのであるか。日本は援助される側に回るのだろうか？

## ザンビア心臓血管外科手術技術移転事業

## ザンビア大学付属教育病院

## 心臓血管外科トレーニング（第4回活動の報告）



## ボランティア参加(2018年9月)

## 看護師 森亜子

今回初めてザンビアの医療プロジェクトに参加した。

医療後進国だと聞いていたので、まず私は何ができるのか、何をサポートすればいいのか見出さなければいけなかった。今回 TICO は新たに「ICU 看護師の育成」に介入し、私はその教育を担当することになったからである。UTH に TICO プロジェクトチームに参加できる ICU ナースを決めてほしいと数ヶ月前からリーダーの松村医師が頼んでいたにも関わらず、決定したのは実際に UTH を訪問し院長に直談判してからだった。

そして、三人の ICU ナースの教育が始まった。ナース達の反応は良く、胸腔・心嚢ドレーンの管理、シリンジポンプの使い方などに対し積極的に取り組んでくれた。また、松村医師に術後の合併症について講義をして頂き手術後に注意すべき観察点について学んでもらった。ナース達はノートを取り質問をし、理解を深めてくれたと思った。

2 週目から手術が始まり、1 日に一人ずつ患者が ICU に入室していった。私たちは前回の手術症例を踏まえ ICU 入室は夜勤帯になると考え担当 ICU ナースには夜勤シフトに入ってもらった。しかし、全 4 症例とも日勤での入室となった。入室時の一番慌ただしい時にトレーニングしたいナースが居なかつたことは、とても残念であった。次回からシフトの調整が課題となった。(ICU は大まかに午前、午後、夜勤の 3 交代である)

患者が入室しケアが始まると、興味を持ったナースが記録用紙を持って近づいてきたので、ドレーン管理や呼吸器管理などを説明しようとしたが、一つ説明するとどこかへ直ぐに立ち去っていった。その後別のナースが来たので点滴ルートの説明をしようとしたが、記録してるからと断られた。そばにいる看護師を捕まえては説明してみたが誰も及び腰で結局何も伝えることができないなま初日が終了した。

その夜、TICO メンバーで ICU ナースの対応について検討した結果、一人で患者全ての管理をすることは現段階では難しく、私たちもザンビアの国民性を十分に理解できていなかったため、もっとコミュニケーションを取り、お互いの信頼関係、理解を深める必要があると思った。ナース達が自ら学ぶ姿勢を示すまでには、まだまだ時間がかかりそうである。

## TICO チームリーダー

## 心臓血管外科医 松村武史

当事業が始まってちょうど 1 年が経過し、第 4 回の活動を迎えることができました。今回は 4 例の手術を行い、手術実績が 10 例になりました。人工心肺を使用した開心術も 5 例行ったこととなります。人工心肺のシステムはほぼ確立でき、入院して、手術、ICU、退院という一連の流れも確立できたと思います。また、今回は心臓カテーテルとペースメーカー植え込みも初めて行いました。

今回は江川医師、山崎看護師、北岡臨床工学技士、乾記者のほか、新たに刑部医師、森看護師が参加してください、とても賑やかなメンバーで活動ができました。

現在の問題は、渡航前に手術症例が決められないこと、インフォームドコンセントの取り方が確立されていない、ICU や病棟看護師との連携不足などです。これらを改善して、さらに多くの手術ができるように指導を強化したいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



## 手術のデモンストレーション（2018年9月）

## 今回の手術

- 9月4日 心房中隔欠損閉鎖術 6歳女児
- 9月5日 心臓カテーテル検査 DDD ペースメーカー植え込み術 81歳男性
- 9月6日 心房中隔欠損閉鎖術 6歳女児
- 9月7日 動脈管開存閉鎖術 1歳10カ月女児

●全員、特に問題なく無事退院しました。



今回のメンバー(2018年9月) 左から：北岡豊永、森亜子  
下左から：乾栄里子、山崎恵子、松村武史、江川善康、刑部正人



## カンボジア救急医療処置技術普及事業

カンボジアで  
救急医療処置トレーニングを実施！

2014年～2017年のJICA事業（高松市提案、公益社団法人セカンドハンド実施）で専門家（医師）を派遣し、協力を続けてきた事業をTICOとして継続して実施しています。過去3年間の事業ではカンボジア南東部のスヴァイリエン州で適切な救急搬送や医療施設に到着してすぐに行う観察の方法や危険な症状の見極めについてトレーニングを実施したほか、住民自らが行う応急処置法のワークショップを僧侶の協力を得ながら実施しました。そこで技術指導した医師らが、現在インストラクターとして自分たちでワークショップを企画、開催するようになり、スヴァイリエン州の救急搬送に関するレベルは事業前と比較すると各段に向上しています。

この経験を踏まえ、昨年度からカンボジア北西部のバタンバン州を対象地として事業展開をすることを念頭に調査を続け、2018年9月、現状の把握という目的も含んだ技術指導のワークショップを実施してきました。

カンボジアでは、ここ数年、驚くほど経済発展を続け、首都プノンペン中心部は大都市と化しています。全体の生活レベルも上がっているものの、富裕層と貧困層の格差は大きいままです。また、医療は日本の40年遅れと言っても過言ではない状況で、特に地方では機材や薬品が十分ではない状態です。さらに、地方の医療従事者の研修（トレーニング）の機会が少なく、特に救急医療処置に関しては学ぶ機会が皆無といった状況だそうです。

救急車には酸素ボンベとストレッチャーしか搭載されおらず、訓練を受けていない人が乗って、「急いで運ぶ」ことを目的に適切な処置が行われていないケースが多く見受けられ、残念ながら搬送中に命を落とすケースも少なくありません。本来ならば救えた命です。

今回のトレーニングでは、救急搬送中に患者の容態を安定させるために、まずはしっかり患者の容態を観察し、急変する要素がないか見極めること、頸椎などの固定の重要性などについて講義やロールプレイで指導しました。皆さ



渡部医師らによるトレーニングの様子

(2018年9月)

## カンボジアプロジェクトマネージャー

理事 新田恭子



カンボジアでの研修員たちと一緒に

(2018年9月)

ん、身を乗り出し、携帯電話で動画を撮りながら講義に参加していました。

「こんな講義はなかなか受けられない」「新しい知識だ」「続けてほしい」という声とともに「訓練したことを活かすためにも資機材がほしい」という声もありました。TICOはとても小さなNGOなので、技術を提供できても資機材までは提供できないことを伝えましたが、医療従事者たちにとって患者の命を救うため、それが如何に必要かがわかるだけに、心苦しさを感じました。現在は、特別な資機材がなくてもできることをトレーニングしていますが、いずれ、そういった最低限の資機材支援もできればと考えています。

現在TICOでは使える予算がほぼない状況で、活動資金を獲得するために申請の準備をしています。とてもハードルが高いもので、獲得できるかどうかはわかりません。ですので、この紙面を通して、活動に賛同して下さる方のご寄付をお願いします！

バタンバン州医療従事者対象のトレーニング

会場：バタンバン州保健局

参加者：バタンバン州公立病院・診療所の看護師、救急出動業務従事者等45名(医師2名、保健局職員5名含む)

指導医：渡部豪、田淵幸一郎(TICO)

Thong um Sothea (スヴァイリエン病院)

内容：1)外傷救急の初期評価についての講義

2)外傷救急の模擬訓練

気道閉塞症例、胸部外傷症例、外傷性ショック症例

反応：参加者は模擬訓練に積極的に参加し、講義も訓練も動画を熱心に撮影する等していた。外傷訓練は初めてとのことであったが、意欲は高く、反応も早かった。指導者になれる可能性がある者が2名以上はいた。(渡部)

\*2018年9月の渡航にはTICOユースの大学生2名が同行しました。次号では学生たちの報告文も掲載します。

## 理事のつぶやき

理事 新田恭子

国際協力と被災地への支援には共通点が多い。国際協力団体が被災地支援でも活躍している要因がそこにある。現場でニーズに耳を傾け、何が求められ、その中で自分たちに何ができるかを判断することから始まる。第一次の支援では安全や食料など生きるために必要なものを支援、次によりよい環境に変えていくための手助け、そして自分たちで立ち上がるためのサポートと必要な物資も支援内容も変化していく。ニーズから事業という形にしていき、人や組織をつなぐデザインをしていくには経験とセンスが必要。

小規模でも地域に NGO があると、全国の NGO やその支援者につながるができる。行政や企業とも連携できた方がいい。地域の NGO の重要性を今から理解し

ておいてもらいたいけど、現実になってからでないとなかなか難しいのかな～



東小松島市の避難所にて淹れたてのコーヒーを

## ご支援ありがとうございました

TICO の国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

### 会費を更新された方

寺口美香、田岡敬子、佐治朝子、瀧 浩樹、岩田祥三、田淵幸一郎・千夏、今心株式会社、坂東正章、金納千晴、森山庄八、中西敬子、近藤通弘、加浦由貴、原田恵子、塩井英子、松本多江、原田栄枝、西野洋、大久保洋一、田所幸枝、町田美佳、井内一志、須藤榮子、垣原宏治、前川加奈美、山崎順子、佐古和雄・友美、尾崎富美子、長谷川陽一、藤田和佳子、

### 寄付をいただいた方(書き損じハガキ等を含む)

佐藤佳孝、武岡サヨ子、中島久恵、峰尾 武、堀隆樹、二宮ケイジ、小倉由喜子、渡辺智大

2018年6月1日～2018年9月30日分

- 順不同、敬称略

## \* TICO の会員になってください！

会員となって資金面からも TICO の活動をサポートして下さる方を募集しています。会員の方には、TICO ニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

### 年会費

賛助会員	個	人	¥12,000
	学	生	¥6,000
	団	体	¥15,000
正会員			¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名(フリガナ)・お電話番号の他に、E メールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添え下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。詳しくはホームページをご覧ください。

## \* ご寄付をお待ちしております！

団体の運営、活動を支える、皆様からの大切なご寄付。団体に対する寄付につきましても、引き続きご協力をお願い申し上げます。

郵便振替 - 01640-6-37649(加入者名)TICO

銀行振込 - 楽天銀行 第一営業支店(支店番号251)

普通 7657541

特定非営利活動法人 TICO

※カナ入力の場合は、(トクヒ)ティコ

クレジットカード - ホームページをご覧ください。

募金箱 - さくら診療所(徳島県吉野川市)に常設しています。

インターネット - TICO ウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこからお買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください。

書き損じハガキ - ご自宅に年賀状の書き損じ、余り等はありませんか。ございましたら、是非事務局までお送りください。

### 特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川 120-4

電話:0883-42-2271(平日 9:30~18:30)

メール:info@tico.or.jp / ホームページ:www.tico.or.jp

フェイスブック:www.facebook.com/ticohq

ブログ:blog.goo.ne.jp/tico\_blog



TICO ニュースレター Face to Face 第 52 号

2018年10月発行 発行人:吉田 修